

小規模校連携による 学びを繋ぐ協働チームの 創出に向けて

笠岡市の取組

連携校

笠岡市・矢掛町中学校組合立小北中学校

笠岡市立大島中学校

笠岡市立神島外中学校



各学年 1 クラス

教師の思い

もっと英語を話せる生徒を育成したい。



どんな授業をすれば
いいのだろうか...

自分の実践は良い方向へ
向かっているのか...



小規模校の課題

- ▲ 多忙（多くの校務）
- ▲ 知識・スキルの習得が追いつかない
- ▲ 同じ教科の相談相手がいない



学びを繋ぐ協働チーム

学びを繋ぐ協働チーム

教師一人一人の『自律性』

（自ら学ぶ姿勢）

+

『協働性』（組織的な学び合い）

取組

（１） 合同教科会の実施

（２） 協働的な授業研究

(1) 合同教科会の実施

週1回、 1 時間、オンラインによる合同教科会

【主な内容】

- ・ 授業の疑問、課題の協議（「困り感」の共有）
- ・ 学んだことの共有
- ・ 目指す生徒像の共有



協議内容、資料は全てクラスルームに残す

合同教科会で目指す生徒像の共有

英語で自分の気持ちや考えを伝える
ことができるようになってほしい



英語で話すことは好き



話す力の育成を目指そう

対面での合同教科会（他のつながりを求めて）



<https://youtu.be/-U7YUcNsAXI>

(2) 協働的な授業研究

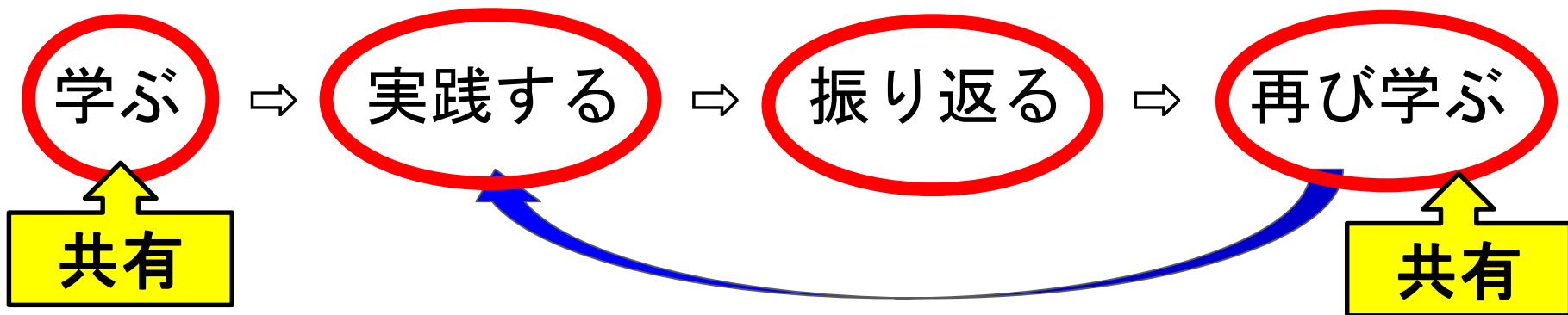
オンライン交流授業の企画・準備

- ・ 単元のゴール
- ・ 単元計画
- ・ 1時間ごとの流れ
- ・ パフォーマンステスト
- ・ 評価 など

オンライン交流授業 の様子



協働で回す学びのサイクル



小規模校連携アドバイザーの先生からの
多様な意見

- ・ より専門的な知識
- ・ 他の地区や先生の実践
- ・ 興味深いアイデア

など

成果と課題

【成果】

- ・ 授業についての悩みを相談することができる。
- ・ 様々な知識を共有し、自分の学びを増やすことができる。

【課題】

- ・ 合同教科会の日程調整が困難である。
- ・ 教科会を行うことで、授業時数＋１時間となる。
- ・ 生徒の英語力についての調査が不十分である。

今後の取組

①合同教科会 → 多忙な日を除く

②協働的な授業研究 → オンライン交流授業に向けて

③協働授業の実施

→教科研究推進委員がそれぞれの学校へ行き、ともに授業を行う。

また、時にはT1として授業を実施する。

協働で回す学びのサイクルにおける今後の展望

学ぶ ⇒ 実践する ⇒ 振り返る ⇒ 再び学ぶ

- 教育理論や研究的知見などの理解
- 生徒の様子、アンケート結果、試験の解答などからの実態把握

理論と実践の往還